

高昌ベゼクリク窟寺の仏教再考

——誓願画等の流布と観音信仰儀礼——

村 上 真 完

6 年前、一好事家の好意でベゼクリク 9 号窟寺¹⁾の壁画を縮小模写した壁画類を見、写真も得た。皆北朝鮮（開城）から得た由。内訳は誓願画 10 点、ダキニ天（荼枳尼, Dākinī 女神）図、漢字名の 3 高僧（都統）・梵字名の 3 尊師阿闍梨・3 貴人・2 貴婦人の肖像画と朝鮮仏画 19 点である。

誓願画 6 点は von Le Coq 1913 の図版の誓願画番号（村上 1984 採用）①, ②, ④, ⑥, ⑪, ⑭に相当する。原画は高さ 3.25 m, 幅 2 m から 3 m. 件の誓願画は高さが 1 m もない精巧な模写図で、原画との相違は少ない。誓願画の ①, ②, ③, ⑪に相当する 4 点は、銘文以外は鏡のように左右逆である。これに－符号を付け－①, －②, －③, －⑪と示す。－③に対応する③はない。原画③は仏が左手を差し伸べる。－③では仏は偏袒左肩で右手を差し伸べる。

他の模写図は紛失したのか。誓願画以外の他の 5 点は稍自由な模写で、小さな相違がある。9 号窟寺の壁画の模写は下絵を作り高麗の寺院で小壁画にしたのか。誓願画の模写が高麗に伝わるのは、元朝との従属関係が強い 13 世紀末頃から元末で、高昌の寺院等は隆盛中であつたろう。今の図が模写か再模写かは未確定。

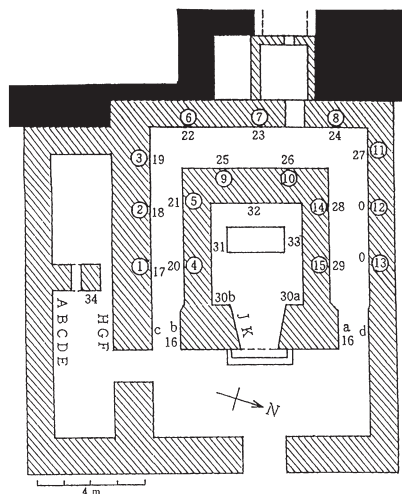


図 1. 第 9 号窟寺平面図

A. von Le Coq, *Chotscho*, P. 14 (Plan des Tempels Nr. 9. Bāzāklik) 参照。この図で 16a ~ 33, 34 は *Chotscho* の図版番号であり、①~⑮は誓願画の番号である。A ~ K は Fred H. Andrews, *Wall Paintings from Ancient Shrines in Central Asia* (London: Oxford University Press, 1948) の図版に見られる。

日乾燥瓦造 (Sun dried brick masonry)

岩窟 (Rock cutting)

3 都統 (tutung) 図は 3 つの銘文帯に縦書に左から右に漢字とウイグル文字が続く。

法都之 Vapgui Tutung bāg -ning iduq körki bo ärür

恵統像 (法恵 都統 殿 の 聖 像は これである)

進都之 Singuy Tutung ヶ / 智都之 Čitung Tutung ヶ

恵統像 (進恵 都統 ヶ) / 通統像 (智通 都統 ヶ) (以上はル・コック図版 16a を解説した小田 1987, p. 59 に拠る。森安 1985, p. 56 も参照)。

これら原壁画はこの霊域に対してウイグル人が仏教信仰を懐き、寺院の維持と保全に熱心な証拠である。森安 1985 (pp. 56f.) は壁画の年代をウイグル時代の遅い時代かモンゴル時代 (13~14 世紀中葉) を予想し、智通都統が唐の貞観時代 (627-649) に『千眼千臂観世音菩薩陀羅尼神咒經』(T. 20, no. 1057a-b) を漢訳した釈智通。そのウイグル語訳者 (シンコ=シェリ都統) は 10~11 世紀の人で、仏教界のトップを都統と呼ぶのは唐支配期に遡るといふ。但し都統の号は更に古い。

法恵都統は高昌仙窟寺法恵 (5 世紀末頃坐亡) であると百濟 1992 が論証した。

進恵都統は未詳ながら類似の名がある。『梁高僧伝』巻第 12 (T. 50, 404a-b) に涼州張掖の人: 釈法進は、〔北涼王〕沮渠蒙遜^{しよきようそん}の信頼を得ていたが、蒙遜の死 (-429) 後、その子息が北魏に敗れて高昌を攻略するのに従い、飢饉に遭って餓える民を救うために自分の身の肉を切裂いて施した。この法進には道進、或いは法迎という別名がある。進恵が法進の別名ではないか。高昌には身命を顧みず利他に殉じた仏僧の記憶が遺ったのであろう。小田 1987 は Singuy (進恵) Tutung (都統) の名が奴隸解放文書に相談者として見える元代の文書をも指摘する。

高昌における都統の当初のあり方は不明ながら都統という称号 (僧官名) が北魏の文成帝 (興安元年 - 和平 6 年 [452-465] 在位) 以降に始まり、北魏に限る。

北魏第三代の太武帝 (始光元年 - 正平 2 年 [423-452]) は、華北を平定し北涼を亡ぼし涼州 (武威) の民を平城 (今の大同) に移して、仏教文化を移入した (太延 2 年 [436] -)。しかし宰相: 崔浩の進言に従い破仏棄釈を断行し (太平真君 7-11 年 [446-450])、僧侶を殺し (沙門を坑殺し)、寺・塔を焚毀し、帝自身も暗殺され、13 歳の孫が帝位に即き第四代文成帝 (在位 452-465) として仏教復興を進めた。その僧官叙任の伝承は混乱するが、道宣 (乾封 2 年 [667] に 72 歳で寂) の『統高僧伝』巻 1 「魏北台石窟寺恒安沙門釈曇曜伝三」はいふ。

釈曇曜は…元魏の和平年 (460-465) をもって、北台の昭玄統に任ぜられ云々。(T. 50, no. 2060, 427c, 『国訳一切経』史伝部八, p. 18)

『宋高僧伝』三十巻を撰した賛寧（919-1001）が、晩年（999）に僧団や僧侶に関する制度とその変遷について撰〔述〕した『大宋僧史略』はいう。

孝文帝が詔〔勅〕を下し…曇曜を沙門都統と為した。すなわち〔都統は〕〔曇〕曜公より始まった。〔曇〕曜は即ち帝の礼する師と為り、昭玄沙門都統と号し、仏法が重ねて興こったことを喜び、〔雲崗に〕石を彫って〔大仏〕像を造り、『浄土三昧経』（浄度経、CBETA 電子仏典集成卅統藏経（X）第1冊，no. 15）並びに『付法藏伝』（T. 50, no. 2058, 吉迦夜と共訳）等を訳した。（T. 54, no. 2126, 243bc, 『国訳一切経』史伝部十三，pp. 332f.）

と、要するに都統は北魏7代孝文帝（471-499）の詔に由来する最高位の僧官名だったが、次の北齊では統の下に都を位置付け、隋でも唐でも統を用いたという。

以上を顧みると高昌における都統という称号は、隋唐以前に遡ることになる。

高昌において都統は時代が下るにつれ家族・家産を持ち、社会的な役割も多様になる。小田1987は元代の都統の仕事が、翻訳僧、書写人、作詩家、土地売渡契約証書の証人、土地売渡契約証書の買主、借用契約証書の借主、遺言状の立会人、養子契約証書の代書人や立会人、阿蘭若処「住持」証書の受領者など、種々な社会的な役割や仕事に亘り、独身者とは限らない。その1例に Šabi Ata Tutung には妻がある。漢字を当てると沙弥・父・都統となる。具足戒を受けた僧侶（比丘）ではなく、沙弥（見習い僧）のまま妻帯して子がある父で、寺院の管理・維持等に携わる「都統」である。

観音（観自在）は称号も様相も多様ながら、ベゼクリクでは壁画が破損して区別もつき難い。今9号窟寺に限るなら、その中堂正面の壁画に観音の台座が見え（Chotscho, Tafel 32）、また同千仏洞北端Aにあった同様の壁画の素描をグリェンウェーデルが遺している（Grünwedel, *Alt-Kutscha*, I 80, fig. 75）。観音を礼拝する法要が予想される。その根拠になるのが智通等の漢訳経のウイグル語訳であろう。森安が扱った資料（＝シンコ＝シェリ都統 Singqo Sali Tutung がウイグル語訳した陀羅尼經の識語）に、インドの阿闍梨伽梵達摩（尊法, Bhagavad-dharma, ウイグル語 Kavandrumi）が訳した『千手千眼観世音菩薩廣大円満無礙大悲心陀羅尼經』（T. 20, no. 1057）を第一巻とし、智通三蔵が訳した二巻（『千眼千臂観世音菩薩陀羅尼神咒經』T. 20, no. 1057a, no. 1057b）を第二巻と第三巻としてウイグル語訳したという。この後の二巻が釈智通が唐の貞観時代（627-649）に訳し後で再訳し、慧琳（737-820）が身咒を神功年中（697）に補った（同経序：T. 20, no. 1057a：高麗本）。シンコ＝シェリは『金光明最勝王經』や『大慈恩寺三蔵法師伝』をもウイグル語訳した翻訳家である。

同序には千手千眼菩薩とは観世音〔菩薩〕の変現で魔怨を伏する靈妙な示現（神

跡)であり、その伝来と翻訳の経緯を語って、北天竺の婆羅門僧蘇伽施が常に此の法を持し壇と手印を結んで朝夕に虔^{つし}んで祈っていた。清信士李太一によって梵音身咒を具した。慧琳が闕けていた身咒をこの經に加えた。身咒とはa本では千眼千臂觀世音菩薩大身咒第一に始まる55行(T. 20, 84a-c)と經末の梵字本41行(T. 20, 89b-)や、b本の根本大身咒に始まる56行(T. 20, 90b-)であろう。その信仰には隋唐代の釈智通が関わった。これら諸經の身咒(陀羅尼)は単に千眼千臂觀音(觀自在)菩薩への信仰ではなく、一切知者、三宝、無量光(阿弥陀)仏、觀音菩薩、大勢至菩薩への帰命に始まり祈願で終わる。智通訳が挾註等を含み類經よりも古い。ベゼクリク9で智通が尊崇されたのは、その影響が大なのであろう。

森安1991が解明したように、マニ教が9世紀前半から1世紀ほど第25窟など数窟を占め、仏教と共存したらしい。ベゼクリクから東南に火焰山を越えたトヨクの千仏洞は人為的破壊と自然の崩落が甚だしいが、20世紀初頭前後に露・独・英・日(大谷隊)の探検隊が発掘調査し遺物を将来した。宮治昭1995-1996は、6~7世紀中頃に作られたという壁画が、浄土三部經、特に『觀無量壽經』に基くと論じた。1995年遼寧省新華社書店発行『中國新疆壁畫全集』6(卷頭論文と図版説明は柳洪亮, p. 69)もベゼクリク7号窟(現17窟)窟頂南坡後部の觀無量壽經變を載せるが破損が多く分かりにくい。同經は宋西域三藏量良耶舍訳と伝えるが、中国(中原)撰述説と西域撰述説との折衷説がある(藤田2007, pp. 171ff.)。ツィーメと百濟1985は、ウイグル語訳の浄土三部經や散文訳ウイグル語訳觀無量壽經諸断片の存在を紹介し、饒饒(Kki Kki, 1295-1345)がウイグル語頭韻四行詩に韻文訳した觀無量壽經(第九觀の後、識語の直前まで数百行欠損)のローマ字化・漢訳・和訳・英訳対照等を含む。資料はドイツ探検隊がセンギムヤムルトゥクで発掘した印刷本で、印刷地は大都(北京)か江南。作者はトルコ系カングリ人(康里, 西北方遊牧民)で翰林院系統の文官となり2度江南地方に赴いた外は大都に住み能書家であった(『元史』卷143)。その詩が北京か杭州で多数印刷され高昌に運ばれた。蒙古から元朝末(-1367)に至る160年間にウイグル仏教の全盛期で、ベゼクリク諸寺院が繁盛したが15世紀中葉にはその仏教が回教徒に駆逐された。

キジル千仏洞の誓願画に詳しい森美智代2015は、その誓願画が過去仏と前生身の釈尊とだけの構図が主であるという。キジルの壁画は人為的・自然的破損が大きい。イネス・コンチャク(Ines Konczak 2013)は誓願画を授記画と呼び、キジルとその近辺の多くの例を集めベゼクリクのそれと対比し、クムトラ34窟左壁とシムシン40窟右壁とに誓願画⑨の主題を読むが両窟の壁画が分かりにくい。

キジルや高昌等西域北道には、〔根本〕説一切有部の仏教が行われ、同時に大乘仏教も信奉されたと伝承と出土品が語る（Cf. Murakami 2008）。ベゼクリク 9 号窟寺の誓願画 13 点等の印刷版はそれらの原画に次ぐ意味があり、今の縮小模写誓願画等も同等に貴重であるが、その保管と保全が危機に近い。

- 1) Albert Grünwedel 編号。現在（1995～）現地編号は 20 号＝中堂と回廊、21 号＝南側堂、69 号＝奥洞。図 1 参照（村上 1984, p. 59）。

〈参考文献〉

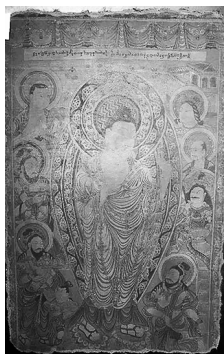
- Grünwedel, Albert. 1920. *Alt-Kutscha*. Berlin: Otto Elsner Verlagsgesellschaft.
- Konczak, Ines. 2013. “Origin, Development and Meaning of the Praṇidhi Paintings on the Northern Silk Road.” 『2012 年度第 1 回国際シンポジウムプロシーディングス トルファンの仏教と美術——ウイグル仏教を中心に——シルクロードの仏教文化——ガンダーラ・クチャ・トルファン第Ⅱ部』龍大アジア仏教文化センター, pp. 43–83（和訳と質疑応答を含む）。
- von Le Coq, A. 1913. *Chotscho*. Berlin: Dietrich Reimer.
- Murakami, Shinkan. 2008. “Early Buddhist Openness and Mahāyāna Buddhism.” *Nagoya Studies in Indian Culture and Buddhism: Saṃbhāṣā* 27: 109–147.
- 小田壽典 1987 「ウイグルの称号トゥトゥングとその周辺」『東洋史研究』46 (1): 57–86.
- 百済康義 1992 「ベゼクリク壁画から見た西域北道仏教の一形態」『キジルを中心とする西域仏教美術の諸問題』京都国立博物館, 1–6.
- ペーター・ツィーメ, 百済康義 1985 『ウイグル語の観無量壽經』永田文昌堂.
- 藤田宏達 2007 『浄土三部經の研究』岩波書店.
- 宮治昭 1995a 「トゥルファン・トヨク石窟の禅観窟壁画について——浄土図・浄土観想図・不浄観想図——（上）」『佛教藝術』221: 15–41, 10–11.
- 1995b 「同（中）」『佛教藝術』223: 15–36, 6–9.
- 1996 「同（下）」『佛教藝術』226: 5–9, 38–83.
- 村上真完 1984 『西域の仏教——ベゼクリク誓願画考——』第三文明社.
- 森美智代 2015 「亀茲石窟の「立仏の列像」と誓願図について」『佛教藝術』340: 9–36.
- 森安孝夫 1985 「チベット文字で書かれたウイグル文仏教教理問答 (Pt.1292) の研究」『大阪大学文学部紀要』25: 1–86.
- 1991 「ウイグル＝マニ教史の研究」『大阪大学文学部紀要』31・32: 1–250.

〈キーワード〉 高昌, ベゼクリク 9 号窟寺, 誓願画等の縮小模写壁画, 観音（観自在）, 高麗, 『観無量壽經』のウイグル語韻文訳

（東北大学名誉教授, 文学博士）

(6)

高昌ベゼクリク窟寺の仏教再考 (村 上)



誓願画① 99.2 cm × 63.9 cm



誓願画－② 99.6 cm × 63.8 cm



誓願画－① 98.7 cm × 65.2 cm



誓願画② 99.3 cm × 64.2 cm



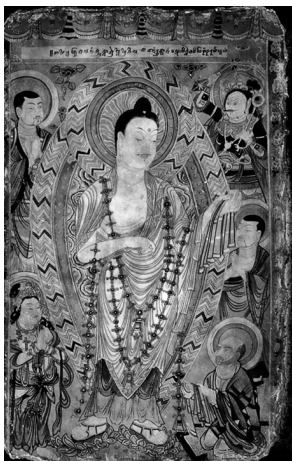
誓願画－③ 98.5 cm × 64.4 cm



誓願画④ 66.0 cm × 47.7 cm



誓願画⑥ 82.8 cm × 70.9 cm



誓願画⑪ 103.0 cm × 63.5 cm



誓願画⑭ (所在不明)



ダキニ天 (Dakṣiṇī 女神) 99.2 cm × 65.2 cm

(8)

高昌ベゼクリク窟寺の仏教再考 (村 上)



誓願画 - ⑪ 100.8 cm × 61.5 cm



三梵名僧 100.0 cm × 61.9 cm



法恵都統



進恵都統



智通都統



二ウイグル貴婦人 90.4 cm × 69.6 cm



三都統 98.0 cm × 69.2 cm



三ウイグル貴人 81.5 cm × 68.8 cm